

第6期  
若手エンジニアのグローバル化に向けた海外研修  
実施報告書

一般社団法人コンピュータソフトウェア協会  
2019年度  
技術委員会

## 目次

1.はじめに.....	3
2.参加者 .....	4
3.プログラム全体スケジュール.....	6
4.事前説明会 .....	7
5.壮行会 .....	8
6.現地研修内容 .....	11
7.プレゼンテーション報告会 .....	17
8.研修前後の変化.....	26
9.その他 .....	27

## 1.はじめに

近年のアプリケーション開発はスマートフォンのみならず音声 AI (Artificial Intelligence)、ロボット等の様々なヒューマンインタフェースデバイスを意識しながらアーキテクトを考える必要があります。

このような環境下では、グローバルなオープンプラットフォーム上でのアプリケーション稼働を想定し、いち早くデプロイできるスピードと、グローバルスタンダードに則ったオープンで創造性に富んだアプリケーション開発が求められています。そのため次世代のエンジニアは、英語をはじめとする語学の障壁にとらわれず、グローバルな技術情報をいち早くキャッチアップし、取捨選択の上開発に活かしていく必要があります。

これらを受け、技術委員会では次世代を担うエンジニアを創出すべく、失敗にひるまずに挑めるマインドを持ち、グローバルな視点から世界中のテクノロジーへの好奇心を持ち、創造的な取組にチャレンジできる能力を促すための研修講座を企画しました。本研修講座も第 6 期を迎え、帰国後に変貌を遂げるエンジニアも現れ始めております。

研修コンテンツも英語生活の中で行われる異文化コミュニケーションや、現地で多人種間のワークスタイルを体験することにより、参加者がダイバーシティの感覚や幅広い見識を養えるよう、ブラッシュアップしております。また、米国における IT テクノロジーの最新動向や現地エンジニアとの交流を通じて、1 エンジニアとしての教養を深めることにも配慮し、現地エンジニアによるスクラム開発の要件定義実習など、刺激あるコンテンツも追加しております。渡米時の研修だけでなく、帰国後は経営層や上席に向けた英語によるプレゼンテーション報告会の場も設けており、エンジニアに不足しがちなプレゼンテーションスキルの向上にも役立つはずです。

本研修は 1 社だけでは海外研修の実現が困難な企業でも参加できるというメリットだけでなく、自社以外のエンジニアとの共同生活によって、コミュニケーションスキルやヒューマンリレーションの形成を促すことにも貢献できるよう、考慮しています。

個人の成長を劇的に促すことは難しいですが、これからの業界を担う人材として、飛躍的に成長を遂げるきっかけとなる研修であると信じております。

本研修実施にあたり、ご参加いただいた企業をはじめ、研修にご協力いただきました企業および個人の皆様には、厚く御礼申し上げますとともに、ここに今年度の実施報告をまとめましたので、ご高覧下さいますようお願い申し上げます。

一般社団法人コンピュータソフトウェア協会

技術委員会 委員長

田中 啓一

## 2.参加者

### 1) 研修参加者

14社・団体 26名（順不同）

氏名	所属
浅野 雅晴	株式会社アルゴグラフィックス
谷口 剛一	株式会社アルゴグラフィックス
小西 綾子	株式会社インテリジェントウェイブ
魏 汝辛	株式会社インテリジェントウェイブ
匿名	株式会社インテリジェントウェイブ
林 実優	株式会社インテリジェントウェイブ
梁 雨	株式会社インテリジェントウェイブ
和田 直斗	株式会社 ATJC
中原 章智	株式会社オープンストリーム
馬場 達也	株式会社オープンストリーム
新井 良二	株式会社コスモ・コンピューティングシステム
兼森 祥平	株式会社コスモ・コンピューティングシステム
小林 巧	さくらインターネット株式会社
穎川 和弘	さくらインターネット株式会社
原島 啓輔	センターフィールド株式会社
新松 裕崇	創研情報株式会社
土岐 賢介	株式会社大和コンピューター
稲納 慎太郎	株式会社大和コンピューター
藤ノ木 直人	日本事務器株式会社
黒須 大地	日本事務器株式会社
藤井 勇佑	日本ナレッジ株式会社
大屋敷 匠平	ニュートラル株式会社
松元 翔志	株式会社フォーラムエイト
中畑 恵梨香	株式会社フォーラムエイト
山田 一輝	株式会社フォーラムエイト
渡部 睦美	株式会社ラネクシー

2) 技術委員会：20社24名（順不同）

氏名	会社名	部署・役職
田中 啓一	日本事務器株式会社	代表取締役社長
山本 祥之	株式会社インテリジェントウェイブ	特別顧問
川口 泰三	アイスタディ株式会社	ラーニング&コンテンツ推進部
大森 謙治	イナソウ株式会社	代表
後藤 泰佐	株式会社インテリジェントウェイブ	取締役 経営管理本部担当 兼 経営企画室担当
大塚 桂一	インテル株式会社	執行役員 営業本部 本部長
松田 貴成	インテル株式会社	コーポレート・ストラテジー・オフィス オリンピック・プログラム・オフィス テクノロジー・インテグレーション・ディレクター
平岡 正明	株式会社 ZenmuTech	執行役員
中村 憲司	株式会社大和コンピューター	代表取締役社長
竹原 司	株式会社デザイン・クリエイション	最高顧問
菊地 保宏	株式会社ドリームファクトリーワールドワイド	代表取締役
徐 永成	株式会社トレンドソフト	代表取締役
岡澤 耕	トレンドマイクロ株式会社	副社長補佐 兼 日本地域事業推進担当シニアディレクター プロジェクト推進本部 本部長
大関 康夫	ニッセイ情報テクノロジー株式会社	販売チャネルソリューション事業部 スペシャリスト
藤井 洋一	日本ナレッジ株式会社	代表取締役社長
瀧 進太郎	BB ソフトサービス株式会社	代表取締役社長 兼 CEO
田代 隆一	BB ソフトサービス株式会社	R&D 推進室 室長
安井 昌夫	株式会社豆蔵	IT 戦略支援事業部 執行役員 事業部長
新井 茂成	Mintomo 株式会社	代表取締役社長
一寸木 洪作	株式会社ユニバーサルコンピュータシステム	デジタルイノベーション推進室長
川上 敬至	株式会社ライトウェブ	代表取締役
小瀬 充	株式会社ラネクシー	代表取締役社長
横山 晋司	株式会社理経	執行役員

3) 研修事業者

現地（米国）：Cosmo ITS .Inc

日本国内窓口：株式会社コスモ・コンピューティングシステム

### 3.プログラム全体スケジュール

スケジュール			
年	月	日	実施イベント
2019	6	4 (火)	参加者募集開始
	9	13 (金)	参加者募集締切
	10	10 (木)	参加者事前説明会 - 全体スケジュール・手続き等
			壮行会実施 - 参加者間の相互交流を実施
	10	26 (土) ~	研修開始 - 米国ロサンゼルスにて実施 ※研修期間中にグループ毎にプレゼン作成
	11	3 (日)	研修終了 - 帰国
	11	22 (金)	プレゼンテーション報告会
12	11 (水)	CSAJ 理事会での実施報告	

## 4.事前説明会

### 1) 実施概要

日時：2019年10月10日（木）16:00～18:00

場所：CSAJ 会議室

### 2) アジェンダ

1. 全体スケジュール（研修受講者向け）
2. 事前説明会・壮行会について
3. プレゼン報告会について
4. 現地行程と事前準備について
5. 研修事業代表からの激励

### 3) 参加者

研修受講者：25名（1名欠席）

研修受講企業関係者：5名

研修事業者：2名（Cosmo ITS, Inc./株式会社コスモ・コンピューティングシステム）

事務局から本海外研修実施における全体スケジュールとプレゼンテーション報告会の概要について説明を行ったのち、研修事業社の株式会社コスモ・コンピューティングシステム 小山 忍 氏より、現地行程および事前準備の説明が行われました。その後、杉本 淳一氏（CSAJ 理事/Cosmo ITS, Inc. CEO/株式会社コスモ・コンピューティングシステム 代表取締役）より、研修受講者に対して激励の言葉が贈られました。



説明を受ける受講生



研修事業代表の杉本様からの激励

## 5. 壮行会

### 1) 実施概要

日時：2019年10月10日（木）18:30～20:30

場所：CSAJ 会議室

### 2) アジェンダ

1. 委員長挨拶：田中啓一（CSAJ 副会長／日本事務器株式会社）

2. 海外研修に関する説明（上席・企業向け）

3. 懇親会

- ・乾杯挨拶 山本副委員長（CSAJ 副会長／人材委員長／株式会社インテリジェントウェイブ）
- ・受講者自己紹介：1名 1～2分（名前、所属、担当業務、性格分析、その他補足）
- ・記念撮影
- ・中締め 小瀬委員（技術委員）

### 3) 参加者

研修受講者：25名（1名欠席）

技術委員会：委員6名

委員長：田中 啓一（CSAJ 副会長／日本事務器株式会社）

副委員長：山本 祥之（CSAJ 副会長／株式会社インテリジェントウェイブ）

後藤 泰佐（株式会社インテリジェントウェイブ）

岡田 智義（日本事務器株式会社）

新井 茂成（Mintomo 株式会社）

小瀬 充（株式会社ラネクシー）

研修参加上席者：11名

研修事業者：2名

杉本 淳一（CSAJ 理事／Cosmo ITS, Inc.／株式会社コスモ・コンピューティングシステム）

小山 忍（Cosmo ITS, Inc.／株式会社コスモ・コンピューティングシステム）

事務局：3名

笹岡 賢二郎（CSAJ 専務理事）、原 洋一（理事・事務局長）、若生 静香

田中啓一委員長からは、目覚しく進化する技術とそれに対応できるグローバル人材になってほしいとして、受講生へ激励が述べられ、その後山本副委員長からは乾杯発声として、英語によるコミュニケーションのアドバイスののち、壮行会が開始されました。

会の途中では受講者各々が自己紹介として、自身の業務、性格、趣味などについて、全員の前で述べました。今年を受講者も営業・エンジニアといった幅広い業種で、日ごろ大勢の人の前で話す機会が少ない受講生も多く、緊張した人も多かったようでした。

その後、研修参加各位同志、名刺交換を行い、自身の業務について、趣味について、滞在中の目標など



の話題で交流を深め、技術委員会委員からのアドバイス等を受けつつ出発前の受講者同士の親睦が図られました。



田中啓一 技術委員長挨拶



山本副委員長による乾杯発声



自己紹介風景 1



自己紹介風景 2



懇親会風景 1



懇親会風景 2



全員で記念撮影



小瀬委員による中締め

## 6.現地研修内容

### 1) 研修概要

日時：2019年10月26日(土)～11月3日(日)9日間

場所：ロサンゼルス市内 Torrance Residence Inn

### 2) 研修実施スケジュール概要

行程	研修項目/場所	内容
10月26日 DAY1	ロサンゼルス到着 研修施設入 オリエンテーション 14:00～15:00	チーム分け、日程・宿泊・食事・外出などの説明、 携帯電話貸与、質疑応答など
10月27日 DAY2	英語グループレッスン 9:00～12:30	Greeting, Self-introduction, Getting Acquainted
	アメリカ先進技術講義 13:30～17:00	InterBusiness Corporation 社 Noguchi 氏 1. Hybrid Cloud & Multi Cloud 2. Containers & Microservices 3. Mobility as a Service (MaaS)最新動向
10月28日 DAY3	英語グループレッスン 9:00～13:00	屋内授業(1)
	英語グループレッスン 14:00～17:00	屋内授業(2)
10月29日 DAY4	Field Work (1) 9:15～11:15	訪問先：FUJITSU GLOVIA INC. 社内見学、現地エンジニアとの技術・意見交換など
	Field Work (2) 13:30～15:30	訪問先：Sony Pictures Entertainment Inc. 施設見学、現地エンジニアとの技術・意見交換など
	Field Work (3) 16:00～17:00	訪問先：Google 内部エンジニアによる働き方の説明、企業内でのエ ンジニアの WorkStyle 見学、意見交換
	Field Work (4) 17:30～18:00	Sony Interactive Entertainment (Play Station Gp.)
10月30日 DAY5	アメリカ先進技術講義 @USC 9:15～10:45	アメリカ先進技術講義： UI/UX Developer/Jordan スマートデバイス UI/UX 設計・開発を専門とす る Jordan 氏によるアメリカの開発手法やフィロ ソフィーについての講義

	アメリカ先進技術講義 11:00~12:30 13:30~15:30	アジャイル開発演習： グループごとに分かれ、アメリカの開発手法やフィロソフィーを Jordan 氏と手を動かし学ぶ
	Field Work (5) 15:30~17:00	California Science Center 見学
10月31日 DAY6	自由行動	
11月1日 DAY7	NASA JPL 先進技術講義 @UCLA 10:00~12:00	講師：NASA JPL Ishimatsu 氏 NASA ジェット推進研究所(Jet Propulsion Laboratory)火星探査の技術解説、IT 技術の応用について
	Field Work (6) 13:00~14:00	UCLA 大学内の IT 環境や施設を視察・体験
	グローバルビジネス 14:00~16:00	異文化コミュニケーション/グローバルビジネス 講義：元 Unisys 社 Yamaguchi 英語講義含め、外国人エンジニアと仕事をするために必要なことや、グローバルエンジニアになるために必要なものなどを講義
	成果報告会 17:30~20:30	成果発表・報告会
11月2日 DAY8	ロサンゼルス出国	
11月3日	帰国	

### 3) 研修風景





Day2 英語グループレッスン



Day2 米国における IT ビジネス講義  
InterBusiness Corporation 社 Noguchi



Day3 英語グループレッスンの様子 1



Day3 英語グループレッスンの様子 2



Day3 英語講師と受講生の集合写真



Day4 @FUJITSU GLOVIA, INC. 1



Day4 @FUJITSU GLOVIA, INC. 2



Day4 @Sony Interactive Entertainment.



Day5 UI/UX Developer/Jordan



Day5 アジャイル開発の体験 1



Day5 アジャイル開発の体験 2



Day5

講師と集合写真 @USC

—Day6 自由行動—



Day7

@UCLA Fieldwork 1



DAY7

@UCLA Fieldwork 2





## 7.プレゼンテーション報告会

### 1) 実施日時・会場

日時：2019年11月22日（金）14：00～19：00

会場：新宿ワシントンホテル 新館「菊」

### 2) アジェンダ

1. 技術委員長挨拶
2. 海外研修行程説明
3. 参加者5チーム（全26名）によるチームプレゼンテーション（1チーム15分）

以下、プレゼンテーション構成

- ① 参加者（チーム）紹介
- ② 研修生活で学んだ事(スライド：英語／プレゼンテーション：言語自由)
- ③ 今後の目標（スライド：日本語／プレゼンテーション：英語）

### 4. 聴講者による質疑応答（1チーム5分程度）

#### ➤ プレゼンテーション順

チームD → チームA → チームB → チームC → チームE

### 3) 参加者

- 登壇者：研修受講者26名
- 聴講者：25名
  - ・技術委員会：5名  
委員長：田中 啓一  
副委員長：山本 祥之  
委員：小瀬 充、後藤 泰佐、岡田 智義
  - ・受講企業（上席等）：14名  
今村 由美、丸口 周之、寺西 容子、山田 麻友美、富田 真一、田代 貴志、梅田 博之、  
藤井 剛、藤村 航、和田 浩平、波間 晋也、杉本 淳一、小笠原 乾、小山 忍
  - ・過去研修受講者（8名）  
第1期研修参加者：1名 豊吉 隆太  
第2期研修参加者：2名 河村 誠、田村 英明  
第3期研修参加者：2名 安田 敬司、飯塚 恭弘  
第4期研修参加者：1名 中野 真衣  
第5期研修参加者：2名 西川 寛朗、依田 紳平
  - ・事務局：6名  
専務理事：笹岡 賢二郎、事務局長・理事：原 洋一、中野 正、若生 静香、功刀 智子、馬 倩

5チーム（1チーム：5名～6名）にわかれ、研修期間中に学んだこと、今後の目標などについて、チームごとに英語を交えたプレゼンテーション報告が行われました。

英語の得手・不得手といった個人差はあるものの、研修期間中に培った、「間違いを恐れずに発言する」積極性を存分に発揮し、チームの「個性」を活かしながら、CSAJ 技術委員、自社の経営層や上席、過去の研修参加者を前に発表しました。

プレゼンテーションを受け、委員・上席などの聴講者からは、研修受講者たちに向けた活発な質問がなされ、その後聴講者はチームごとに採点・評価を実施、懇親会の場で集計結果が発表されました。



田中委員長挨拶



質疑応答の様子

#### 4) プレゼンター（研修チーム）

##### ◆グループ A

- 匿名 / 株式会社インテリジェントウェーブ
- 梁 雨 / 株式会社インテリジェントウェーブ
- 和田 直斗 / 株式会社 ATJC
- 中原 章智 / 株式会社オープンストリーム
- 小林 巧 / さくらインターネット株式会社



プレゼンテーションの様子



チーム記念撮影

◆グループ B

魏 汝辛／株式会社インテリジェントウェイブ  
馬場 達也／株式会社オープンストリーム  
穎川 和弘／さくらインターネット株式会社  
中畑 恵梨香／株式会社フォーラムエイト  
渡部 睦美／株式会社ラネクシー



プレゼンテーションの様子



チーム記念撮影

◆グループ C

浅野 雅晴／株式会社アルゴグラフィックス  
谷口 剛一／株式会社アルゴグラフィックス  
林 実優／株式会社インテリジェントウェイブ  
新松 裕崇／創研情報株式会社  
藤ノ木 直人／日本事務器株式会社



プレゼンテーションの様子



チーム記念撮影

◆グループD

- 小西 綾子／株式会社インテリジェントウェイブ
- 原島 啓輔／センターフィールド株式会社
- 土岐 賢介／株式会社大和コンピューター
- 大屋敷 匠平／ニュートラル株式会社
- 松元 翔志／株式会社フォーラムエイト
- 新井 良二／株式会社コスモ・コンピューティングシステム



プレゼンテーションの様子



チーム記念撮影

◆グループE

- 稲納 慎太郎／株式会社大和コンピューター
- 黒須 大地／日本事務器株式会社
- 藤井 勇佑／日本ナレッジ株式会社
- 山田 一輝／株式会社フォーラムエイト
- 兼森 祥平／株式会社コスモ・コンピューティングシステム



プレゼンテーションの様子



チーム記念撮影



プレゼン後、上席からのアドバイス



杉本様より総評



委員・上席・研修受講者全員で記念撮影

## 5) 懇親会（コミュニティ活動）

報告会終了後は懇親会を実施、研修受講者はもちろん、技術委員、研修参加企業関係者や上席、過去第1期～第5期参加者も含めた、幅広い交流が行われ、今後の目標などの話題で盛り上がりました。また、懇親会中には報告会で行われたプレゼンテーションの結果発表や技術委員からのサプライズが行われるなど、とても活発な懇親の場となりました。



小瀬委員による乾杯発声



懇親会風景



懇親会風景



結果発表の様子



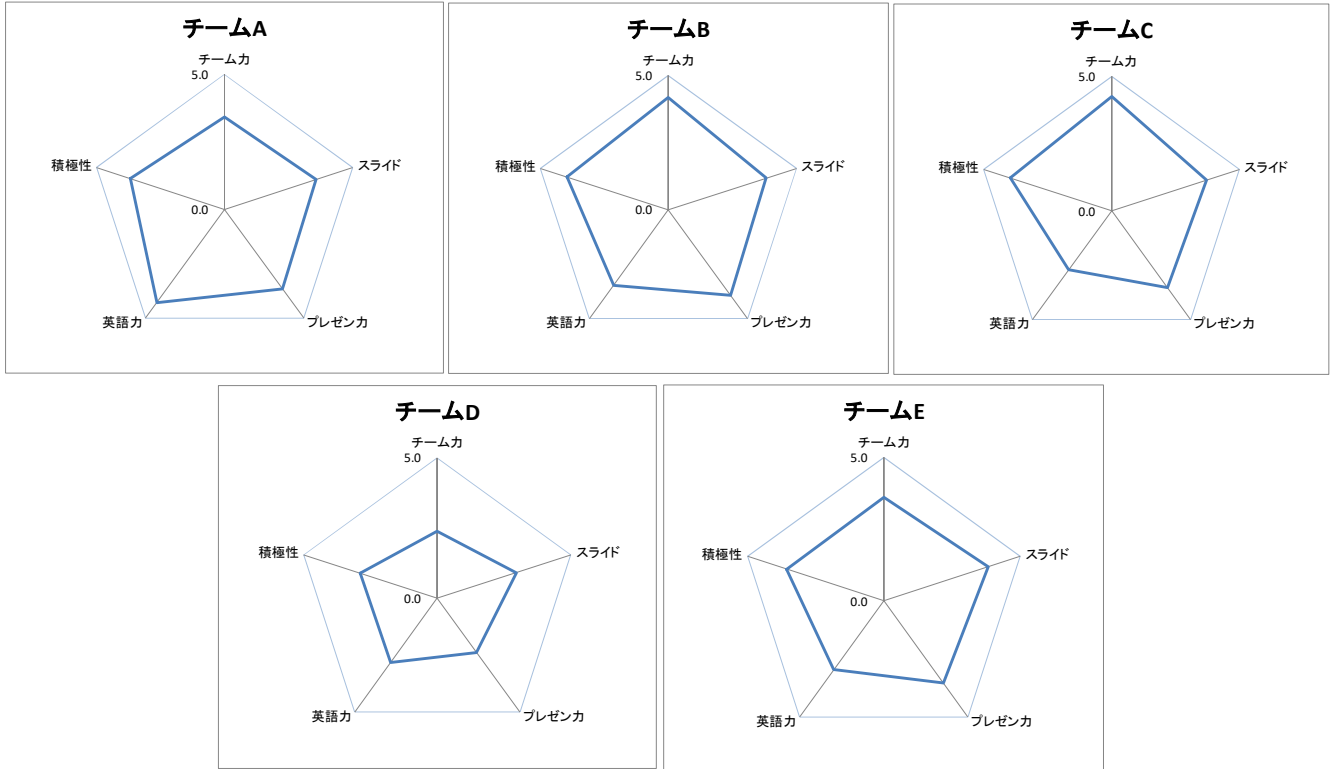
技術委員と優勝チームで記念撮影



山本副委員長による中締め

## 6) プレゼンテーション採点結果

プレゼンテーション報告会では、聴講者（技術委員・オブザーバ・過去参加者）が、各チームのプレゼンテーション内容について、5項目で採点を行い、以下の結果となりました。



### ●上席からのコメント

<p>チーム A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の作成内容、バランスが統一されていて良かった。</li> <li>自分がめざしたい目標・姿が質疑応答から見られた。</li> <li>英語が聞きとりやすくて良かった。声も大きく話している内容がよく伝わりました。プレゼン資料もグラフがあり分かりやすかった。</li> <li>研修全体の流れ、それぞれの思い、発想が入り良いプレゼン報告であった。</li> <li>英語での発表が多くて良かった。15分でのプレゼンでは短いかもしれないが、全体的に浅い発表だったのでもう少し思いの強い発表があると良いと思う。</li> <li>写真とかもうちょっとスライドがあった方が良かった。</li> <li>体験による気づきと皆さんが変わったことが判る良い発表だったと思います。</li> <li>USの仕事の進め方、技術者の考え方など良いポイントを学んだようですね！自社内でこの良いポイントを広げてください。</li> </ul>
<p>チーム B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表が明るく前向きでよかった。</li> <li>プレゼンについてはクイズを交えたり工夫しており、チームワークの良さが感じられた。但し、ほかのチームに比べ英語での発表が少なかったため、苦手かもしれないが</li> </ul>

	<p>挑戦してほしかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プレゼンの中で対話形式にしていた部分が工夫を感じられてよかった。</li> <li>・ プレゼンテーションの資料と日本語と英語の配分が適切で見やすかった。</li> <li>・ チームの雰囲気がとても良かった。伝えたいポイントが絞られていて、理解しやすかった。</li> <li>・ 初めてプレゼンでクイズを見ました。積極性を評価できる。異文化のところ、ハイコンテキスト、ローコンテキストの違いや採用における考え方の違いは興味深かった。日本語でもプレゼンに中味はあったので問題なかったと思う。</li> <li>・ プレゼンの全体像が分かりやすくよかった。(クイズも含めて) 英語でのプレゼンのチャンスだったので、もう少し英語でプレゼンしてほしかった。</li> </ul>
チーム C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本語利用率が高い。チームが一つにまとまっている点は良い。メンバーのスピーチ配分を均一にできたら良いかな。</li> <li>・ チーム内でスローガンを決めて、研修を受講されていた点はとても良かった。</li> <li>・ 研修の中で個々に感じたことが多く発表されていてよかった。</li> <li>・ 研修中のチーム内での役割なども説明があり、楽しく学べたのだと思える。研修を通して、仕事、意識、取り組み、考え方も変化したようで、今後に役立ててほしい。一方で技術面の報告も欲しかった。</li> <li>・ 発表資料が分かりやすく、写真もあり良かった。英語も聞きとりやすく分かりやすかった。</li> <li>・ 皆さんが感じ経験に持ち帰ったモノを是非とも自分や周りのために活かして欲しい。</li> <li>・ チームとしては良くまとまっていて、わかり易い報告だった。もう少し英語プレゼンが多ければ…</li> <li>・ 技術面の内容よりも、「コミュニケーションが重要」と考えている方が多いチームだと感じた。メンタル的な気持ちをアピールしているところが印象的だった。</li> </ul>
チーム D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最初のチームでもあり、かなり緊張していたように感じる。もっとリラックスできたら良かったかな。内容的には「学んだ事」と「目標」の形式だったのが良い。</li> <li>・ 個人での発表であったためチームで何をしたかを発表してほしかった。</li> <li>・ 下を向いてプレゼンをする方が多く、プレゼンの中で伝えたい部分が良くわからなかった。英語を積極的に話していたのは良いと思った。</li> <li>・ 個々がそれぞれでプレゼン資料を作成している為、チームワークが感じられなかった。</li> <li>・ 海外で良い刺激を受けたと思った。今後、英語力の必要性を痛感したとのこと頑張ってください。</li> <li>・ 日本とアメリカの違いが分かりやすかった。(働き方や技術の向き合い方) 英語習得は大変だと思うが、頑張してほしい。</li> <li>・ 「学習したこと」と「今後の目標」について個人だけでなく、チームとしての結果があると良かった。</li> </ul>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ トップバッターでのプレゼンで、みなさんの緊張感が伝わってきた。全員英語でのプレゼンで苦戦していたところも多々あったと思うが、みなさんの頑張りを感じられた。</li> </ul>
チーム E	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ English 研修で現地と Communication を取った事は素晴らしい。せっかくなので、もっと英語を使ってプレゼンした方が良かった。</li> <li>・ スライドやプレゼンの内容は非常に上手に構成されていた。もう少し練習（準備）があればもっと良くなっていたと思う。挑戦することをテーマにしていたので、今後も挑戦を続け、自信につなげて行ってほしい。</li> <li>・ 前向きな姿勢での取り組みは良いと感じた。チームメンバー同志で高め合おうといった意気込みを感じられない点が少し残念と感じた。</li> <li>・ 過去も含めて、報告の視点が違うことでプレゼン引込まれた。今回の報告視点を達成してください。</li> <li>・ 研修を受けて良かった点、悪かった点をもっと具体的に話してほしかった。</li> <li>・ 英語や文化の違いに対する目標設定は良いと思う。英語はツールなので人々に伝える思いやテクニックも学習していくと良いと思う。</li> <li>・ 学んだことをあらゆる視点で落とし込んでいて、有意義な研修であったことが伝わってきた。</li> <li>・ 夢、目標の重要性についての学びが良かった。プロ意識の違いの気づきが良い。→「自分自身を見つめ直す。」素晴らしい気づきをしたと思う。</li> <li>・ challenge することの重要性をチーム全員で共有したこと、素晴らしい。ぜひチャレンジし続けてください。</li> </ul>

## ■ アンケート個票

1. プレゼンテーションについて、下記の項目から選択して○で囲んでください。

	チーム力 チームの協力関係などの視点	スライド スライドの見易さや伝わりやすさなどの視点	プレゼン力（巧みさ） 説明手法などをみた場合のプレゼンの巧みさ	英語力 プレゼン内での英語表現についての伝わりやすさ	積極性（意気込み） プレゼンに対する意気込み（積極性）
チーム名	高 ← 評価点 → 低	高 ← 評価点 → 低	高 ← 評価点 → 低	高 ← 評価点 → 低	高 ← 評価点 → 低
チーム A	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1

2. 以下の設問の選択肢に☑をいれてください。

		<input type="checkbox"/> とても良い (4) <input type="checkbox"/> 良い (3) <input type="checkbox"/> 普通 (2) <input type="checkbox"/> 頑張れ (1)		
総合評価	チーム A	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">感想/指摘</td> <td></td> </tr> </table>	感想/指摘	
感想/指摘				

## 8. 研修前後の変化

受講者に海外研修前後の変化をヒアリングしたところ、以下のような回答が得られました。

- ・ 新しい技術を積極的に取り入れていち早く新技術のプロフェッショナルになる事がエンジニアとして成長する近道であることを学び、新技術への積極性が向上しました。
- ・ 自分がやりたいことがあったら、とにかくやってみようと思うようになりました。
- ・ ソフトウェア開発者として、以前に比べてビジネス的な視点や考え方が広がった。
- ・ 発言しなければ会議に参加する意味がない、ダメな意見など存在しないと学び、発言への躊躇いが減りました。
- ・ 恥ずかしくなく英語を話せるようになりました。人と接することが好きになりました。仕事に対する考え方が変わりました。
- ・ いまの会社や生活の環境はとても小さなコミュニティで、もっと広い世界があって、価値観があるからと思うと心が楽になった。
- ・ 優柔不断な性格でしたが、物事を決断して進めることができるようになったと感じています。
- ・ 新しいものに触れたい・新たなことにチャレンジしたい、という気持ちが大きくなりました。また、語学面では英語に対する心の壁のようなものが薄れた気がします。
- ・ 英語に関しては、漠然とあった英語に対する抵抗が無くなりました。短い研修生活でしたが、その中でも成長できるビジョンが見えてきたので、今後英語に触れる時間を増やしていきたいと思いました。技術に関しては、自分の仕事と世界の状況に差に焦りを感じています。社会的に価値のある人材となるため、もっと勉強する必要があると痛感しました。
- ・ 仕事やプライベートに対する考え方の変化やモチベーションの向上を感じています。
- ・ 複数の講義で自分の目標や力で挑戦していく姿勢に刺激を受け、技術に関して能動的に情報収集など積極的に取り組むようになりました。

## 9.その他

### ○厚生労働省「人材開発支援助成金」の利用

#### ・制度概要

雇用する労働者のキャリア形成を効果的に促進するため、職務に関連した専門的な知識及び技能を修得させるための職業訓練等を受講させる事業主等に対して助成する制度です。

※ 事業主にあつては、訓練実施計画、年間職業能力開発計画を作成するとともに、職業能力開発推進者を選任することが必要

※ 特定訓練コース 1 コースあたり 30 時間以上の訓練が対象

### ○人材開発支援助成金

訓練関連	
特定訓練コース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働生産性向上訓練</li> <li>・若年人材育成訓練</li> <li>・熟練技能育成・承継訓練</li> <li>・グローバル人材育成の訓練</li> <li>・特定分野認定実習併用職業訓練（要大臣認定）</li> <li>・認定実習併用職業訓練（要大臣認定）</li> <li>・中高年齢者雇用型訓練</li> </ul>
一般訓練コース	上記以外の訓練

### ■訓練関連の助成額・助成率

支給対象となる訓練		賃金助成 (1人1時間当たり)		経費助成		実施助成	
			生産性要件を 満たす場合		生産性要件を 満たす場合		生産性要件を 満たす場合
特定訓練コース	Off-JT	760円 (380円)	960円 (480円)	45% (30%)	60% (45%)		
	OJT					665円 (380円)	840円 (480円)
一般訓練コース	Off-JT	380円	480円	30%	45%		

### ■受講数の制限（特定訓練コース・一般型訓練コース）

助成対象となる訓練等の受講回数は、1人につき「年間職業能力開発計画期間」内3回。

### ■1事業所・1事業主団体等の支給額

1年度（※1）に受給できる助成額は、最大で500万円（※2）。（特定訓練コースを含む場合、1,000万円）

※1 支給申請日を基準とし、4月1日から翌年3月31日まで

※2 各コースの助成額を合計した上限額です。1事業主が単独で申請したうえで共同事業主として申請する場合も各上限額となります。また、教育訓練休暇付与コースの支給額は当該上限に考慮しません。

<グローバル人材育成訓練の解説>

海外関連の業務（※3）に従事する従業員に対して訓練を実施した場合。

※3 海外事業拠点での事業展開、海外への販路開拓、販売網の拡大、輸出、海外の企業との提携・合併等の海外事業を実施するに当たって生じる、①海外生産・事業拠点における管理業務②海外市場調査③提携、販売等の契約業務④国際法務等海外事業に関連した業務をいいます。

訓練対象者	雇用保険の被保険者
基本要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Off-JT により実施される訓練であること (事業主自ら企画・実施する訓練、または教育訓練機関が実施する訓練)</li> <li>● 実訓練時間が 30 時間以上であること</li> <li>● 海外関連の業務を行っている(計画を含む) 事業主が、労働者に対して実施する海外関連の業務に関連する訓練であること</li> </ul> <p>※海外で実施する訓練等については、海外の大学、大学院、教育訓練施設等が企画、主催するものに限り、日本の訓練機関が単に海外で施設を借りて実施するものは原則、対象外</p>
実施訓練例	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 語学力・コミュニケーション能力向上のための講座などの受講</li> <li>● 国際法務、国際契約、海外マーケティング、地域事情に関する講座等</li> </ul>

○利用実績

- ・ 本研修講座は上記の助成金適用対象として構成し、参加企業による個別対応で申請を行った。
- ・ 個別対応の申請に際しては個別サポートを実施した。
- ・ 利用企業：5社

【研修・報告書に関する問合せ先】

一般社団法人コンピュータソフトウェア協会

〒107-0052

東京都港区赤坂 1-3-6 赤坂グレースビル

TEL : 03-6435-5991 FAX : 03-3560-8441 E-mail : [gyoumu1@csaj.jp](mailto:gyoumu1@csaj.jp)

